

2018年6月27日

3 子どもを含めた全世代への健康のまちづくり施策の必要性について

○松本暁彦議員

3、子どもを含めた全世代への健康のまちづくり施策の必要性についてですが、本市は健康のまちづくりを力強く進めています。先月、「せつつムーンウォークプロジェクト」の目標達成が新聞に載り、本市の健康への取り組みがPRできました。この成果と、どのような世代が参加しているのかをお聞かせください。

○藤浦雅彦議長

保健福祉部理事。

（平井保健福祉部理事 登壇）

○平井保健福祉部理事

それでは、「せつつムーンウォークプロジェクト」の成果と参加者の世代についてのご質問にお答えいたします。

「せつつムーンウォークプロジェクト」は、市民の皆様が1年間に歩いた距離を集めまして、月までの距離38万4,400キロを目指すというもので、より多くの市民の皆様に参加していただくことを意識していただくために平成28年度から始めたものでございます。平成28年度は惜しくも目標には届きませんでした。平成29年度は40万6,552キロと、目標を大きく超えることができました。同事業は、市民相互の連帯感を高めることで、健康づくりへの意識向上を狙ったものであります。数百名の市民に申告いただいていることから、一定の効果があったものと考えております。

なお、参加者の世代でございますが、65歳以上の世代がほとんどでございます。

○松本暁彦議員

続きまして、子どもを含めた全世代への健康のまちづくり施策の必要性についてですが、成果、世代については理解いたしました。

ただ、健康とは歩くだけで維持するものではありません。食事と適切な知識、そして継続が必要です。よって、それらを包括した健康プログラムが必要かと思っておりますが、どうお考えかお聞かせください。

○藤浦雅彦議長
保健福祉部理事。

○平井保健福祉部理事

食事と適切な知識、継続性を包括した健康プログラムの必要性についてのご質問にお答えいたします。

健康づくりには、議員がご指摘のとおり、一過性の運動にとどまらず、正しい知識に基づいた運動や食事、栄養の管理など、適切な生活習慣の習得に向け、継続的に取り組んでいくことが重要となります。そこで、例えば、健康教室に参加された市民の皆様にはウォーキングイベントを啓発するなど、さまざまな健康施策のつながりを意識し、市民一人一人に包括的な健康づくりに取り組んでいただくよう事業を進めてまいりたいと考えております。

○藤浦雅彦議長
松本議員。

○松本暁彦議員

ぜひ包括的健康施策をお願いいたします。

さて、健康施策参加者には高齢者が多いとの認識ですが、健康とは全ての世代に関係するものです。その視点ですと、働き世代や小学校前の幼児等の世代が健康のまちづくりでの空白世代かと思えます。このような世代にも適切な健康づくりは必要かと思えますが、どうお考えかお聞かせください。

○藤浦雅彦議長
保健福祉部理事。

○平井保健福祉部理事

高齢者のほか、働き世代や幼児等の世代の健康づくりの必要性についてのご質問にお答えいたします。

健康づくりの施策につきましては、さまざまなものがございますが、いずれも高齢者の方の参加が多く、働き世代の方の参加は少ない状況でございます。働き世代の方につきましては、市が展開する事業に参加する時間がないということが大きな要因と考えられますが、健康寿命の延伸のためには、こうした世代の方々にはいかに健康づくりに関心を持っていただくことが大きな課題となっております。

今年度、新たな取り組みといたしまして、ICT技術を取り入れた健康ポイント事業を進めておりますが、働き世代の方が参加しやすい事業スキームを構築し、より若い世代から健康づくりを意識していただくよう、今後の取り組みを進めてまいりたいと考えております。

また、小学校入学前の幼児につきましては、幼児の健全な発育を支援するため、切れ目な

い子育て支援策の構築に努めるとともに、保健師活動を通じまして子どもの健康を支援してまいりたいと考えております。

○藤浦雅彦議長
松本議員。

○松本暁彦議員

ぜひ全世代への施策検討をお願いいたします。若いころから健康を意識することにより、健康長寿につながり、その結果、高齢者になっても健康で、社会での活動意欲が促進するばかりでなく、医療費抑制にもつながります。特に、働き世代は忙しく、そのような方に健康プログラムを短期間で提供し、3年あるいは5年後に忘れる前に再び提供するなどは効果的ではないでしょうか。同様に、幼児には、健康プログラムならぬ健康教育を提供することができればよいのではないのでしょうか。

ぜひ健康のまちづくり推進のために、全世代への切れ目のない健康施策を検討するよう要望いたします。